

2025年度血液検査研究班10月講演会アンケート結果

作成日 2025年10月25日

【テーマ】 血液疾患を多面的に捉えるために：検査技師が果たす役割とは？

【日時】 令和7年10月18日(土) 15:00～ 17:30

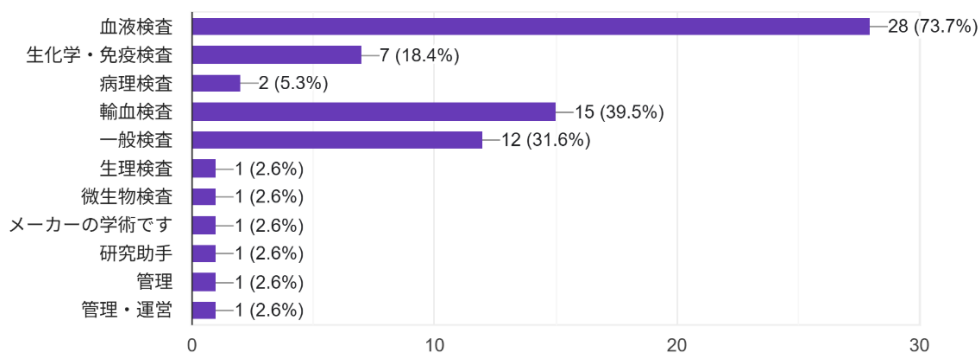
【場所】 日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第二病院
加藤化学カンファレンスホール（1病棟10階）

【参加人数】 53名

【日常担当している部署について】

日常で担当している部署はどちらですか？

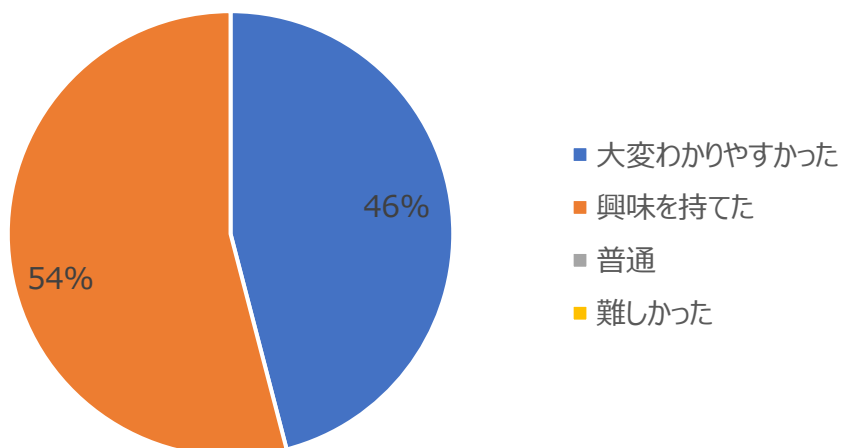
38件の回答



講演 1.「寒冷凝集素症診療の最前線～鑑別診断から最新治療まで～」の内容について

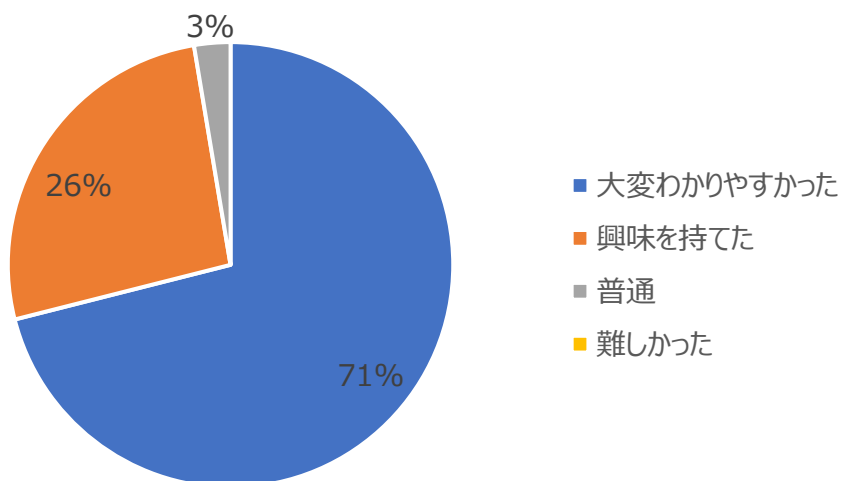
いかがでしたか？

37件の回答



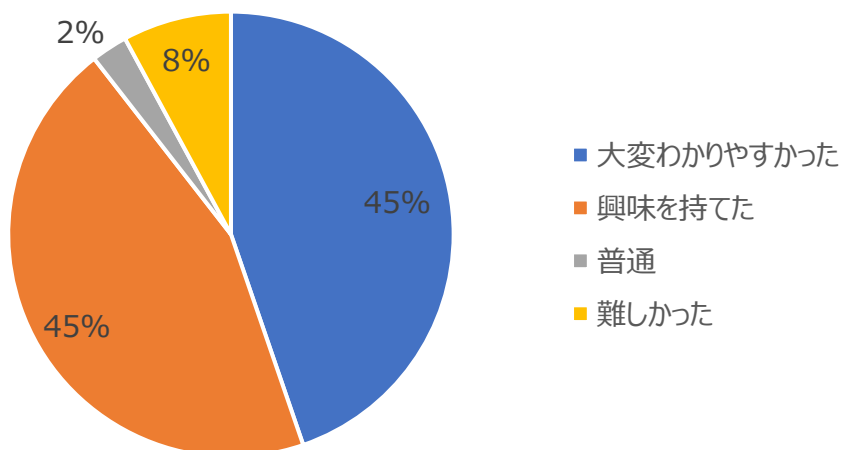
講演 2.「骨髓検査で検査技師が果たす役割」の内容についていかがでしたか？

38 件の回答



講演 3.「悪性リンパ腫を中心とした血液疾患の遺伝子異常と診断への応用」の内容について
いかがでしたか？

38 件の回答



【受講者からの意見・感想】

- ・3 演題とも非常に興味深く勉強になりました。特に富田先生の講演内容である遺伝子異常については、多少の知識は持っていたものの知らないことばかりで改めて勉強しないといけないなと感じました。

- ・富田先生の講演資料を可能ならいただきたいです。

⇒一斉メールに連絡済（10月26日迄可）

- ・講演を聞いて、寒冷凝集素症が疑わしい人がいる場合に、加温検査は行っているが臨床への報告をそれほど重要視していなかった(ほとんど診断済みの患者さんであったため)が、新規で寒冷凝集がある場合は臨床への伝達が必要だと感じました。講演2では普段、骨髓標本を検査室で引いているため他の検査オーダー(病理、遺伝子など)を気にすることはあまり無かったが、オーダーからもどの疾患を疑っているかや、マルクを確認した後の考察として重要だと感じたのでそこを意識してみようと思いました。講演3では検査の話でよく疾患と遺伝子異常について聞くことはあってもその遺伝子異常がどこで起こって作用しているかの総論を聞く機会があまりなく、漠然と疾患ー遺伝子異常の種類と言った理解だったので、遺伝子異常がどこで発生して治療に役立つのか理解でき、とても興味深い内容でした。

- ・富田先生の講演が、非常に得るものが多く、大変、勉強になりました。DLBCLのABCとGCBでは化学療法の感受性に差があることは認識していたのですが、遺伝子異常に差があることを知り勉強を進めてみたいと考えました。ありがとうございました。

- ・富田先生のご講演が聞けて大変勉強になりました。

- ・特に富田先生の講演は、わかりやすくまた最新の情報も盛り込まれた内容で楽しめました。ありがとうございました。

- ・骨髓検査の講演の中で演者の方が診療に貢献するためにはということを本気で考えている熱意にすごく感動しました。骨髓検査は当院ではほとんど行っていないが、その他の業務でも診療に貢献するためにどうすればいいかを常に考えて仕事をするということを改めて見直していきたいと思いました。

- ・貴重なお話を沢山拝聴でき、とても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございます。

- ・基礎的な内容から臨床的な情報まで、幅広い内容で有意義な研修となりました。有難うございました。

- ・今後の業務に活かそうと思った。

- ・大変興味の持てる内容だったと思いました。

- ・CADについてほとんど知識がなかったので、講演を聞いて大変勉強になりました。

【今後の要望】

- ・疾患ごとの各論も知りたいことは尽きないですが、今回の様な診療から検査、治療まで総論的な内容で開催していただけるとさらに理解が深まると感じました。
- ・骨髓像の判読
- ・ホームページ等最新の情報に関する内容を拝聴できると嬉しいです。
- ・骨髓像の標本作製のポイント等、教えていただけますとありがたいです。よろしくお願いいたします。